## TMRセンターの乳用牛育成による地域一体的な生産基盤の強化

(熊本県)

- ・<u>酪農家が立ち上げたTMRセンターが新たに育成事業を開始。</u>
  <u>酪農家の労働負担の低減</u>とともに<u>和牛受精卵移植した初妊牛</u>を供給し、和子牛の生産も拡大。
- ・今後、JAの育成牧場が大規模な施設整備を行い、そこを核として地域の関係者の連携により酪農・肉用牛の生産基盤を強化。

#### 現状と課題

地域の生産基盤の脆弱化



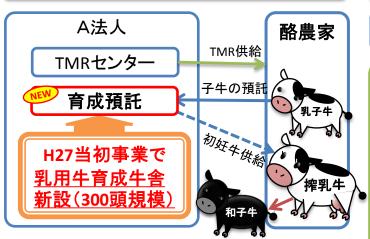
# 課題① 生乳生産量の減少

- 〇規模拡大を進める中、<u>コス</u>ト・労働負担の低減が課題。
- 〇飼料生産組織は発達。



#### 新たな取組

TMRセンターが育成預託事業を開始



# 効果① 酪農家への初妊牛供給と省力化

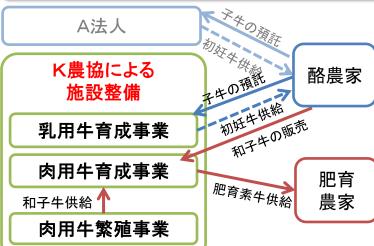
- 〇地域の中で初妊牛を確保し、コスト低減。
- 〇育成に係る<u>労働負担が低減</u>され、<u>搾</u>乳・規模拡大へ集中。

### 効果② 和子牛の生産拡大

○<u>育成</u>牛に和牛受精卵を移植し、初妊牛 として酪農家へ供給。

### 今後の展望

地域の連携による酪農・肉牛の生産基盤維持



## 展望 K農協の育成牧場が3つの事業を展開

〇酪農家は育成預託により初妊牛の確保、労働負担低減を実現。和子牛はJAの牧場が買い取り育成するため負担がなく、地域全体の生乳生産量を維持するとともに収益性を向上。 〇肉用牛肥育農家は地元産肥育素牛を安定的に確保。